

今日の詩編の表題に「ダビデがガトでペリシテ人に捕らえられたとき」にこの詩編を祈ったと書かれてあります。それは『サムエル記下』21章11節以下に記されていますが、ダビデがまだ若い時、サウル王から命を狙われ、イスラエル国内に居られなくなり、ペリシテに逃げて行った時に、なんと疑われないように狂人のまねをして難を逃れたという出来事でした。ダビデ程の人物でもそんな惨めで苦労した時があったのだなあと思いますが、それ故にこの詩編の最初の言葉「神よ、わたしを憐れんでください。わたしは人に踏みにじられています。戦いを挑む者が絶えることなくわたしを虐げ、多くの者がわたしに戦いを挑みます」と祈る言葉が与えられたのでしょうか。厳しく辛い時でした。

それでも彼は「わたしはあなたに依り頼みます」と語っていますが、次にはその自分の「(依り頼んでいるという)言葉は苦痛になります」と正直に告白します。なぜなら依然として「人々はわたしに対して災いを謀り、命を奪おうと後をうかがいます」と、主が救ってくださることを信じ切れない程の困難な状況が起きているからでした。

そして、この詩編で最も有名な、かつ昔から共感を呼んで来た言葉を語ります。即ち「あなたはわたしの嘆きを数えられたはずです。あなたの記録にそれが載っているではありませんか。あなたの皮袋にわたしの涙を蓄えてください。」です。ここの「嘆き」は原文で(ノード)であり、これは「さすらい」とも訳せます(創世記4章16節を参照下さい)。今迄、本当の自分の在り方や行くべき道、救いを求めて“さすらって生きて来た”その道程を神様はすべてご存じのはずです、あっちで頭を打ち、こっちで痛い目に遭いながらも真剣に生きて来たその“さすらいの歩み”を主はちゃんと覚えて下さっているはずだから、もうそろそろ豊かな恵みと祝福を与えて下さってもよいではないでしょうかという祈りの

言葉なのです。神様は私たちが流した“涙の数や量”もちろんと記録して下さいのだからという言葉なのです。故に「神を呼べば、敵は退き、神はわたしの味方だと悟るでしょう」という確信へと変えられる時が必ず来るのだと！

この詩編の最後の言葉はまさに、今日のこのアドヴェント(待降節)第一主日にふさわしい言葉で終わります。それは「あなたは死からわたしの魂を救い、突き落とされようとしたわたしの足を救い、命の光の中に、神の御前をあるかせてくださいます。」です。教会の暦では本日が新年最初の礼拝でもあります、過ぎた一年、神様が私たちの魂を支え、足を守ってここまで連れて来てくださったことに感謝しながら、今一度、今日から思いも新たに“神様の命の光の中”を歩んでいく者でありたいです。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 12月10日(水) 20:00
II. 12月11日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 会堂清掃奉仕者を覚えて

担当者: (水) TK (木) IY

祈りに覚える人: IKさん UEさん

【教勢報告】

主日礼拝 男19 女40 計59
祈祷会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女8 計9
日曜学校 幼稚科 小中科 計

【次週礼拝】*待降節第三主日 12月 14日(日)

聖書: 詩編 94:12～19
ルカによる福音書 8:1～8

説教: 「ルカ 62 - 人に踏みつけられても」

武田 真治 牧師

讃美歌: 243(1～3)、236(1)、32、聖歌隊238

【次週当番表】 195、492、93(1)

司式: KY 長老 奏楽: MA 礼拝: SM 長老

献金: YM YS 受付: SM HH

会堂準備: IY OY KS NH

森本博子

看板: II 週報: KY お花: IK

【次週集会予定】

礼拝前: ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会

・壮年/婦人/ダビデ 各会

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 12月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549